

祁答院地区4町の合併を目指して

薩摩東部地区

任意合併協議会の現況

昨年10月15日発足以来、合併を進める上で必要な法定合併協議会設立準備に関するもののほか、合併後の新しい町の建設計画（まちづくり計画）のための基礎調査・現況調査・住民アンケート調査などを順調に進めてきております。

しかしながら、祁答院町における4町合併を求める動きを考慮して、法定合併協議会の設立をしばらく見送り、当分の間、任意合併協議会のみを推進することとなっています。



第3回協議会の風景

祁答院町の状況

祁答院町の議会は、祁答院町の住民団体「祁答院の明日を考える会」からの住民発議による祁答院地区4町での法定合併協議会の設置議案を否決して、昨年12月25日、川内市など2市4町3村で構成する「川西薩摩地区法定合併協議会」に参加されました。

このため、「祁答院の明日を考える会」では今年1月6日、4町での法定合併協議会設置の賛否を問う住民投票に向けた手続きを開始され、同月28日には住民投票を請求できる有権者の6分の1の有効署名、644人を大きく超える1033人の署名簿を祁答院町選挙管理委員会に提出されました。選挙管理委員会の審査・縦覧を経て、2月27日住民投票の本請求がなされました。

住民投票は、選挙管理委員会が本請求があつた旨を公表してから40日以内に行われることとなっており、3月末日ごろになる見込みです。投票の結果、有効投票総数の過半数の賛成があつた場合には、4町での法定合併協議会が設置されることになります。

祁答院地区4町合併の共通利点

祁答院地区4町は、地理的にも、また、これまでの交流の歴史や地域の特性からしても、共通点が多く、4町が合併することは、行政区域と生活圏がひとつになり、今まで以上に緊密な連携がとれ、住民サービスがさらに向上することが考えられます。

買い物や通勤・通学、通院など、住民の生活圏が一致しており、共通したまちづくりが展開できます。

衛生処理組合や消防組合などの一部事務組合については、合併により1行政の1部局となることから、事務合理化やスピーディな処理体制の確立ができ、今まで以上のサービスが受けられます。

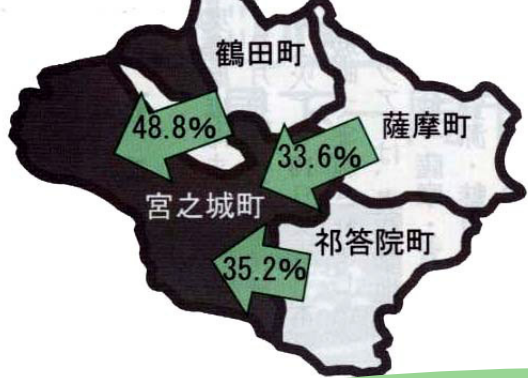
基幹産業である農業の振興については、1行政、1農協となり、今まで以上の農業振興に対する取り組みがスムーズに展開できます。

また、県の出先機関である川内農林事務所、川内耕地事務所が本地域内に移転することが計画されており、本県の主要な農業地帯としての発展が期待できます。

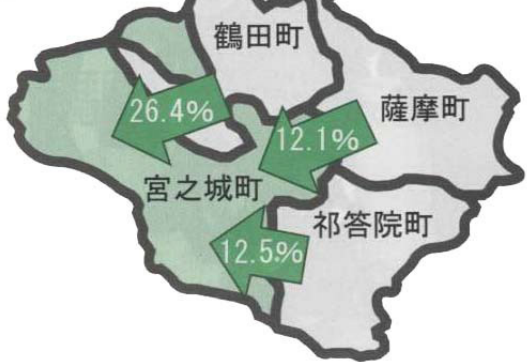
生活圏域と行政区域の一体化という「強み」と、恵まれた温泉などの地域資源を相乗的に活用した新たなまちづくりの展開が期待できます。

過疎化や少子高齢化、産業の振興など共通した課題がありますが、共通した施策の展開が可能となることから、効率的な対応が期待できます。

買い物圏域



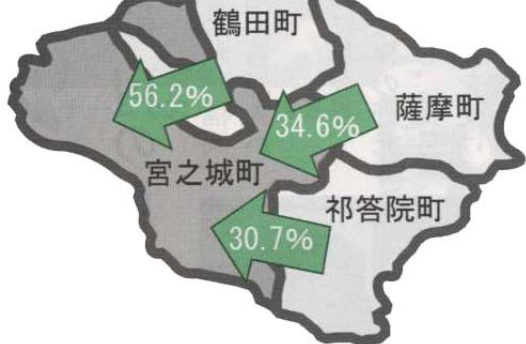
通勤圏域



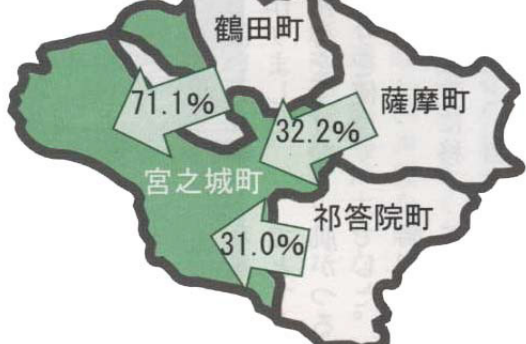
まとまり・一体感のある祁答院地区4町

4町は、買い物、通勤、通学及び通院等の住民の生活圏が一致しております。言い換えれば、4町全域が買い物、通勤圏域ということであり、合併しても住民生活のニーズに沿ったまちづくりができるということです。

通学圏域



通院圏域



祁答院地区4町で取り組むことの必要性

祁答院地区4町は、これまでの長い交流の歴史があり、経済圏、営農圏等をひとつにしており、一部事務組合やさつま農協、薩摩東部森林組合等の広域団体も一体性が見られるとともに、住民の生活圏もほぼ一致しております。

また、産業構造も共通し、基幹産業である農業については、行政と4町を管内とするさつま農協が一体となった農業振興に努めてきております。

さらに、4町全体が車で30分以内で移動でき、住民にとっては利便性のよい地域でもあります。

このようなことから、祁答院地区4町で合併することは、住民の生活圏が一致している「強み」があり地域に密着したスムーズな施策の展開やサービスにおける利便性の向上が図られ、今後の祁答院地域の振興発展を図っていくうえからも大変重要なことであります。

逆に、この4町の枠組みを壊すことは、これまでの長い歴史の中で培われてきた結びつきが壊れることであり、住民生活にも影響を及ぼすことは必至です。

町民の願いである「祁答院地区4町の合併」をみんなで実現しましょう

祁答院地区4町の合併は、4町の町民の願いであり、祁答院地域の振興発展を図っていくうえからも大変重要なことです。

祁答院地区4町の合併をみんなで実現しましょう。町民の皆様のご理解とご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。